

佐賀のIT企業に投資

ドーガン2500万円「クラウド」開発

ファンド運営会社のドーガン・インベストメンツ(福岡市)は10日、運営する中小企業支援ファンドが、情報技術(IT)ベンチャーの「EWMフ

アクトリー」(佐賀市)と親会社の「EWMジャパン」(東京)に投資した、と発表した。

株式や社債引き受けで、投資額は計2500万円。EWM2社は調達資金で、地場中小企業向けにインターネット

経由でソフトウェアなどを共有する「クラウドコンピューティング」サービスの開発を進める。

EWMジャパンは、日本IBM出身の友納健一郎氏(佐賀市出身)が2001年に起業。大手企業から、ウェブサイトの構築や運用を受注し、EWMフアクトリーがサービスの提供している。

友納社長は「中小企業

クラウドコンピューティング インターネット経由で、ソフトウェアやデータベースを共有するコンピューターの利用法。

従来のように、会計などの目的に応じたソフト

を各社が導入する必要がある。ネット経由で共同利用する。データはネット上に保存し、サーバー導入なども不要になるため、経費削減や効率化目的で導入する企業が増え始めている。

西日本シティ銀行や九電工などが出資し、ドーガン・インベストメンツ(福岡市)が運営する「チャレンジ九州・中小企業がんばれファンド」は、佐賀市のソフトウェア開発会社などに計2500万円を投資した。地元中小企業のIT(情報技術)化推進や雇用創出につなげる狙い。8月31日付で投資を実行。投資先は今

チャレンジ九州ファンド

佐賀のソフト会社に投資

回で10社となる。

投資先はイーダブリュエムジャパン(EWMジャパン、東京・中央、友納健一郎社長)と同社の

親会社と計2500万円

全額出資子会社、イーダブリュエムファクトリー(佐賀市、同)。

EWMジャパンは東京都交通局や米メルク子会

地元中小のIT化後押し

社の万有製薬など大企業や公共機関向けのウェブサイトを開発・運用を手掛けている。2006年に佐賀市に子会社を設立し、業務の大半を子会社に移行。今回の投資を受け、ネット経由でソフトウェアを提供するクラウドコンピューティングを地域で共同利用する「地域クラウド構想」を自治体などに提案するという。